



【発行】

偕行会リハビリテーション病院

医療相談課

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3883 FAX 0567-52-3885



「EPA看護師候補者の日本語の疑問」

日中の残暑はもうしばらく続きそうですが、秋の夜長鈴虫の音が心地よい季節となりました。今年3月の「偕行会リハビリテーション病院 NEWS」でも紹介させていただきましたが、経済連携協定（EPA）にて日本の法律に基づく看護師としての資格を取得することを目的とした、看護師候補者が当院に4名（フィリピン、インドネシア）が在籍しております。今回は看護師候補者のレポートでとても興味深い内容がありましたので一部ご紹介したいと思います。

「～今現場に出て、コミュニケーションに対する問題が日々増えてきました。一番悩んでいるのは擬音語。擬音語がたくさんあり難しいので、覚えられません。例えば、職場で患者さんの調子を尋ねる時『〇〇さん、調子はいかがですか？』と尋ねると〇〇さんは「調子はポチポチ」とか「頭がガンガン痛い」、「ムカムカする」、「皮膚がカサカサ」と答えてくれます。日本人はどうやって擬音語を覚えて使っているのか、いくら考えても想像できないし頭がモヤモヤになりました。～」

現在、看護師候補者は午前中看護補助者として、清潔、食事、排泄、移動のお世話の業務につき患者様に関わらせていただいています。日々、擬音語に頭を悩ませ、方言に翻弄されつつも日本語を覚えようと頑張っており、午後は看護師国家試験の勉強や日本語学習を行っていますが、医療専門用語の学習はとても難しく、漢字の読み仮名を母国語に変換して意味を覚えていくといった、気の遠くなるような作業を行いながら学んでいます。日本の文化や情緒といったところはなかなか説明が難しく、教える方も悩んでしまうことが多くあり、日本人ながら改めて日本の素晴らしさを感じています。

言葉や文化は違いますが、看護という言葉は全世界統一です。看護師候補者が3回の受験資格期間内に日本の看護師資格を取得できるように、職員全員で支援したいと思っています。

皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお祈りします。

看護副部長 前野 利恵



看護師候補生4名
頑張っています！

